

26 畜産生産力・生産体制強化対策事業

【令和2年度予算概算要求額 1,636 (1,383) 百万円】

<対策のポイント>

肉用牛・乳用牛・豚・鶏の改良や飼料作物の優良品種の利用を推進するとともに、肉用牛の繁殖肥育一貫経営や地域内一貫生産、国産飼料の一層の増産と着実な利用の拡大のための体制整備により、畜産の生産力及び生産体制の強化を図ります。

<政策目標> [平成25年度→令和7年度まで]

- 生乳生産量：745万トン→750万トン
- 牛肉生産量：51万トン→52万トン
- 豚生産量：131万トン→131万トン
- 鶏肉生産量：146万トン→146万トン
- 鶏卵生産量：252万トン→241万トン
- 飼料自給率：26%→40%

<事業の内容>

1. 家畜能力等向上強化推進

- 遺伝子解析情報等を活用した新たな評価手法や始原生殖細胞（PGCs）保存等技術により、生涯生産性の向上、多様性を確保した家畜・家禽の系統・品種の活用促進、肉質・繁殖能力の改良の加速化等を推進する取組を支援します。

2. 繁殖肥育一貫経営等育成支援

- 肉用牛生産の構造改革を進め繁殖基盤の強化を図るため、肉用牛肥育経営の一貫化や地域内一貫生産を推進する取組を支援します。

3. 草地生産性向上対策

- 不安定な気象に対応したリスク分散等により粗飼料の安定的な収穫を確保するため、草地改良や飼料作物の優良品種利用の取組を支援します。

4. 飼料生産利用体系高効率化対策

- 飼料生産組織の作業効率化、草地基盤に立脚した生産性の高い酪農・肉用牛生産、国産濃厚飼料の生産振興の取組を支援します。

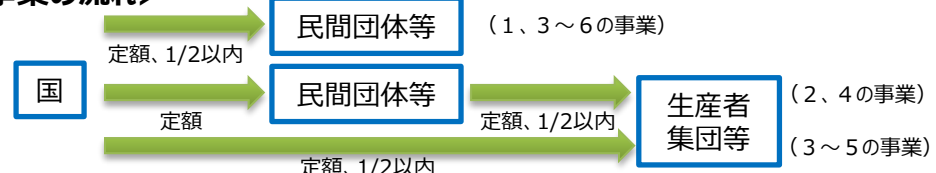
5. 国産飼料資源生産利用拡大対策

- 放牧、未利用資源の利用、有機畜産物生産の普及の取組を支援します。

6. 持続的飼料生産対策

- 温室効果ガス削減飼料の流通量等のデータ収集・分析等の取組を推進します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 家畜能力等の向上強化

遺伝子解析技術を活用した選抜イメージ

PGCs保存等技術の活用

優秀な牛と同じなので、この子牛は「優秀」と予測

2. 肥育経営からの経営内一貫化

【交雑種♀】

・価格の高い黒毛和種雌牛の代替として、受精卵牛としての交雑種雌牛の導入を支援

3. 気象リスク分散による安定的な収量確保

転換後の収穫期イメージ

6月	OG：1番草
7月	TY：1番草
8月	OG：2番草
9月	TY：2番草

(注) OG：オーチャード、TY：チモン

複数草種の導入等により収穫適期を拡大し、天候不順による影響を緩和する取組を支援

4. 飼料生産の効率化

子実用とうもろこしの収穫

自動操舵装置

ICTによる作業の効率化や国産濃厚飼料の生産振興の取組を支援

5. 放牧、未利用資源の利用

未利用地における放牧

農場残さ等未利用資源の活用

飼料資源として活用するための取組を支援

【お問い合わせ先】 (1, 2の事業) 生産局畜産振興課 (03-6744-2587)
 (3~6の事業) 生産局飼料課 (03-6744-7192)